1997年1月24日（奇数月発行）

NO. 2

新宿ダンボール村通信

97・1

編集・発行　新宿連絡会

第2号

1996・1・24

ダンボール村 強制撤去

そして、一年・・・

みなさんの、現状を、TVで見たことがあります。
エスカレーターの様な歩道の件です。
平凡な主婦です。でも、世の中の不条理を沢山
感じています。子供がいるので、福祉関係・・・
官庁関係のしていること。将来、ホントに今の日本で
子供達は幸せになれるのか考えます。
部所、各役所を中心に
今、やるべき事は、衣・食
どんな形でも、こまっている
方向が、行政に向き合って
あの・・・何のはげましも
みなさんが、1010を
ハケする方、いつか、太陽の
社会になることを願
そうすれば、が死をは
張せいてっきょのような(
考えた行政、人々が
願っています。お年寄から
ちいません・・・体に気

郵便はがき

50

日本郵便 JAPAN

SE12.1.6

□□□-□□

新宿区西新宿
1-1-1
新宿西口
インフォメーションセンター前

新宿ダンボール村
様

26才主婦・2才の母親

□□□□

1部300円・年間5000円（カンパ・郵送料込み）

◇もくじ◇

ページ

2　こぐれしげおの「新宿の眼」

3　1996・1・24　そして一年…

9　裁判報告

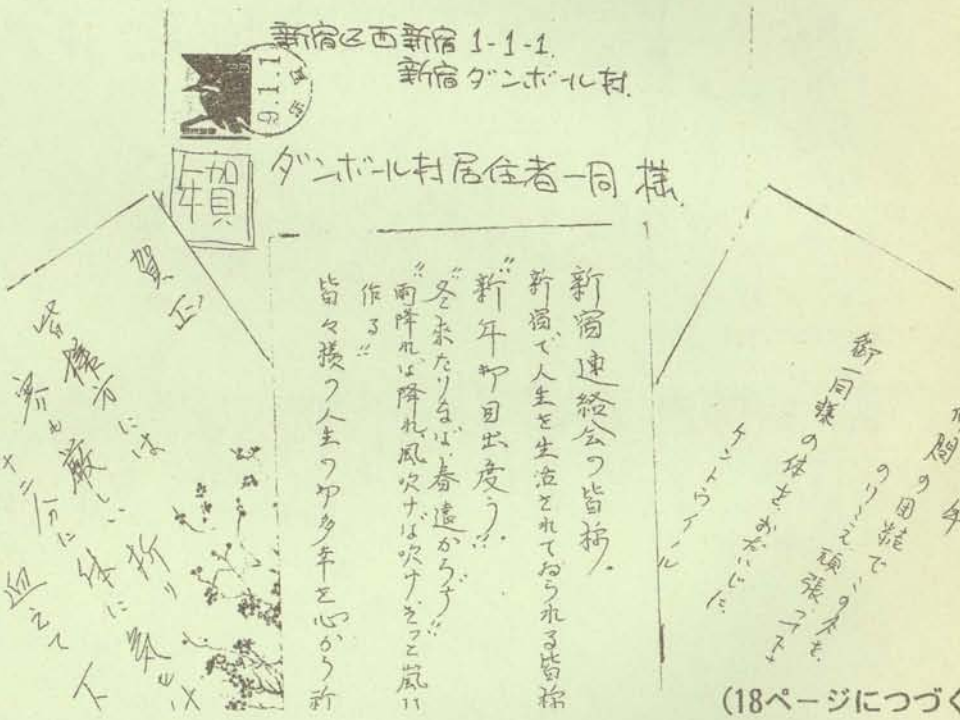
11　スーさんの地下街物語

13　越年闘争の記録

15　あのね ── 宮下ゆりさんのお話

18　ダンボール村へのおたより

☆ダンボール村への年賀状、おたより、本当にありがとうございます！☆



(18ページにつづく)

◇エアメールも宅急便も届くダンボール村にあなたも激励のおたよりを！

あて先：〒160 東京都新宿区西新宿 1-1-1　西口インフォメーションセンター 前

新宿ダンボール村

こぐれしげおの「新宿の眼」

【第二回】　そして神戸、だから新宿

年の初めのめでたさも過ぎて、当たり前の日常がもどった矢先の忘れられない出来事が二つ。一つは二年前、阪神淡路の大震災。もう一つは昨年、新宿駅での強制立ち退き。規模はちがうがどちらもたくさんの人々が住処を失って、困りきった多くの顔がそこにあった。「神戸の市民と新宿のホームレスを一緒にするな！」とお怒りの向きもおありでしょうが、ぼくにはそれらを区別するややこしい理屈はわからない。だって、二年前の神戸も去年の新宿もどっちもとっても寒かった。そんな中で、神戸の避難所で毛布を顔からかぶってボーゼンとうずくまるオバサンと、新宿駅地下の緊急避難所で「あたしゃつらいよー」と小さく丸くなっていたオバチャンの姿があった。とてもじゃないが、ぼくには「あっちはかわいそうだが、こっちは仕方がないよ」なんていう勇気はない。どちらも生身の人間が、寝たり起きたり生活したりするのに必要な「住処」ってヤツを失った。だからみーんな困ってた。どっちも同じようにみんながしんどい思いをしてた。

二つの出来事からそれぞれ時間がたって、神戸じゃ高速道路が立派に再建、自動車がブンブン突っ走る。新宿じゃ動く歩道とキレイな街路ができて人々がブイブイ通りすぎる。そんなモンが本当に必要なのか。そういや神戸の仮設住宅は山の中、新宿の臨時保護施設は運河の向こう。そんなんがホントに「家」のかわりになるのかい？　神戸の仮設に入った人は孤独死したり、新宿の保護施設に入った人はとっくに追い出されて路上死してんじゃないか。神戸でも新宿でも役所の用意した「箱」に入れなかった人々は見捨てられ、避難所や路上で今も困ったまんまじゃないか。

僕が、この二つの出来事を忘れられないのは、どちらも「事件」の日に見た光景をそのまま現在に引きずり続けているからだろう。神戸も新宿も終わっちゃいない。

「役所はあてになんない」神戸と新宿、どちらの住民もそう言った。だから家づくり村づくり、生活づくりは住民自身でやる。ハコモノに合わせての人づくりを役所はしようとするが、住民は人に合わせた家づくり、村づくりを始めた。それはいつの日か、腐れきった国家という既存の巨大システムを食いちぎることになるかも知れない。神戸と新宿はそんな初夢を僕に見せてくれる。

（木暮茂夫・報道写真家）

＊写真：撤去されたダンボール村の長老Mじいちゃんは元板前。家づくり、村づくりの主役はそんな人たち。

1996・1・24

ダンボール村強制撤去
そして、一年・・・

自分の身もかわいいし、他の人の身もかわいい。だから、どうなるか分からないけど、やるだけやろうと思った。住んでいるところを持っていかれるのは、やっぱり悔しいよ。こんな目にあえば、多分、誰だって・・・。

菊池庄造

俺は悔しかった。
悔しかったなぁ。

市崎和広

悔しいけど、しょうがないよな。あとは、みんなで力を合わせてやっていくしか・・。
今は、それしか言いようがないもんなぁ。

潮崎秋津

新宿駅から都庁へと続く地下通路に、家を失った人達が、ダンボールの小屋をつくって住みはじめました。そして、いつしか寄り添うように、ダンボールハウスは軒をならべ、一つの村のようなコミュニティーがそこに生まれていました。

1996年1月24日、東京都は大量の機動隊、ガードマンを使い、通路のダンボールハウスを強制撤去しました。

そして、一年。住みかを追われた人達は、駅前の広場でまた新しい村をつくり出しました。村でおきたもめ事の仲裁や、困っている仲間の面倒を親身にみてきた市崎さん、時には酔って寄り合いに殴り込んできたり、親分風を吹かせたりする佐々木さん。一年前の強制撤去の現場に暮らしていた人達が、それぞれにふり返る想い、その言葉からあふれ出す、様々のこと・・。

佐々木義美

ない　ない　なんにもない
なしの実　なしのつぶ
なしが　なければ
なすが　ある
なすか　なさねば
なにかある　ような――
なすいため　なすやき
なきをみる　なすのわさびづけ
なすのおしんこ
なしのかんづめ
なしの花　なしのたね
なんにもない　もんだいだ
なしにつめがない　もんだいだ

4号街路の方がよかった。冬はあたたかいし、おもしろかった。できれば、移りたくなかったよ。ここは落ちつかない。

1月24日のことは、今思えば、残念だよ。

富樫俊六

1月24日のことを詠んだ和歌はないかって、よく聞かれるけれど、あの日のことは、あんまり、あんまりショックだったから、何も・・・。

富士森和行

しょうがないや、のう。

服部誠

4号街路に住んでいた
俺達の、私達の
1996・1・24

新春雑感

富士森和行

慥か、戦後の名画として高く評価された、黒沢明監督の「静かなる決斗」が、ふと私に想起されてならない。

若い軍医が野戦病院で性病患者の兵士の手術に立ちあった折に、彼の血を享けて了い、帰還後フィアンセとの結婚を通して人間のモラルの純潔さを、これ程シリアスに描いた作品は少ない。

扨て、東京都の一方的、強制撤去排除に依る底辺の野宿労働者への対策抗争から3年、去年の1月24日から一年を送った訳である。

そうした意味で、冒頭にあげた映画のテーマ通り、我々の斗争も今年は、実に「静かなる決斗」そのもので、当事者の自立への真摯な姿勢と誠意を世論に問われ、原点に戻っている。

二首を添えて、私の初念を申し上げる次第である。

（一首は、一般の投稿歌である。）

歓徳の祈りの声に平和あり小さく弱きものにはあれど

つゝがなき新春のひと日の果てにさえ命いとしむ路上のあらむ

（1997・1・14　新宿ホームレスの歌より）

一年前のこと

高橋和夫

1月24日。暁の攻防だ。年配者が多い。まともに食事も取っていない。若き機動隊、そしてガードマンが立ちはだかる。法も秩序もなくなっている。これが法治国家日本なのか。役人のやっている事には我々のみならず、国民も閉口している筈だ。法を超えた無理な逮捕、長期身柄拘束で沈黙を委ね、解体を目論む。これぞ正に権力の不法行使だ。その後、裁判闘争は続く。検察側証人の虚言が続く。「記憶にありません」はロッキード事件以来の彼等の流行語だ。傍聴席から怒号、罵声が乱れ飛ぶ。退廷者続出、身柄拘束寸前迄至った者もいる。後半弁護側の証人が次々に出廷。事件の全容が明らかになって来た。この二つの裁判は無罪の可能性が高いと云われている。三月判決だ。

「あの日」から一年、ダンボール村のこれから

市崎和広

私は新宿で生活して450日位たちます。それまでは、長期に渡る野宿生活はありません。そもそも新宿の1・24強制排除（新宿斗争）の行政による実力排除が明るみに出た1975年10月ごろ、私は仕事先でこの事を知りました。

元来、私は権力者・独裁者は、大嫌いです。またサラリーマンの経験も有り、その時も権力をかさに労働者の自由、権利をうばう行政に反対して、権力者と斗った事も有りました。また、今回の事も自分なりに何か出来ないかと新宿斗争にかかわって来ました。

新宿及び全都の野宿者数千人が路上に叩き出され、多くの死者を出しかねない事。年老いた人々は、生きている間は楽しく生活できる様に、私達はその仲間達を守りながら、行政と交渉しようとしたが、すべての交渉を打ち切られて、実力的・暴力的に排除されました。そして、東京都は路上生活者を排除の目的で、色々な設備を都道にしました。多額の金を使い、赤字行政に発展したそのつけは、すべて都民負担にし、職員給料も設備維持費も都民の負担です。この事は東京都は全然気が付いていない、残念な事です。行政といえばそれまでだが、それを都民が何とか歯止めをしなくてはいけないのではと思います。

私は1996年1月24日以降、生活する場所がない仲間に対して、まず生活の家（ダンボールハウス）を、西口の地下に数人の仲間と共に建てました。現在も空間をうまく利用して建てています。体調の悪い仲間には、医療保護・生活保護をとれるように、仲間全体で支援活動を行っています。今は新宿西口地下は、去年の新宿夏祭り、今年の越年越冬において多くの市民からも支援されるようになり、市民とのつながりも少しはもてるようになったと思います。これからもその関係を維持しながらうまくダンボール村を、全国の人にわかってもらえたらいいな！

今年になって、ようやく仲間が仲良く共存共栄が出来るようになりました。これも半年がかりで仲間の協力で実現しました。

今年は死者を絶対に出さないようにしたい。ダンボール村から早く自立できるように。また、新しい人が村に来たらうまく仲良く関係を保てる村になったら、最高だよ。ガンバロウ！

炊き出し

新城秋男

また一つ
ふえた
ビルジング・・・
土のにおいのない
この大都市
　新宿
　山谷

今日もまた
その夜に
一つの
「いのち」
消えて
　いった

真っ青な
　正月の空
かなしい
　おもいが
みんなの
　脳の中で
心のなか
えと
しずみ
　こんで
いった

つきあげる
憤りが
炊き出しの
きざむ
野菜の中に
ほうちょうの
さきに
こ・め・ら・れ・た・か・・・

カドカドにつっ立つ
「権力」のロボット
どうしてヤツらは
あんなに「ふっくら」
している！？

地下道をカッポしてる
「権力」のロボット
どうしてヤツらは
あんなに体が
「ガッシリ」している！？

憤りが
ばく発する
抵抗の
意志が
鳴どうする
地下道
，96・1・24

憤りが
ばく発する
抵抗の
意志が
鳴どうする
，95・12・22
そして
，96・1・13

熱い心の
想いに、描く夢・・・
死ぬほどまでに
この「地」
えの想い

・・「だが生きるとは
働き、飢え、痛み
そして死ぬこと」・・・
　金芝河

この社会
という
流れは
　全て
よごれている
　生きるのは
この流れの
中に、入ら
なければ・・・・・

でも
仕事もない
仕事がえられない
だから
街頭で
地下道で
今日も
くみかわす
コップ酒

いくつもの
つみ
かさなった
想いが
コップの
中にあり
酒でいっしょにのみ
下す・・・・
その
哀しい
想い・・・・・

それが
この「地」
　新宿
　山谷
あらゆる「地」で
「生きる」
ことだ・・・

私にとっての１・２４

本田庄次

強制撤去の日取りは、東京都のトップしか知らぬ極秘事項で、内部ではＸデーと呼ばれていたらしい。俺は９５年１１月頃からほとんど新宿に泊まりこみ、小さなダンボールハウスの中で寝起きしていた。そのハウスでこんな夢を見た。

「１・１８強制撤去を絶対に許さんぞ！」

連絡会のメンバーがマイクで叫んでいる。

この夢を根拠に、俺は１・１８強制撤去と決めた。夢などいいかげんなもので、撤去は１・２４に行われた。俺は１・２４は絶対にありえないと踏んでいた。それは俺の３４回目の誕生日であったからだ。

疲労と睡眠不足の中で２４日は明けた。前日の昼には、インフォメーション前で「集団睡眠」を取り、白昼堂々と布団を広げて仮眠をとった、夜は３０分だけ寝た。様々な情報が錯そうし、最終的に「未明３時～５時に撤去」の線が固いと判断した。こういう時の情報もまたいいかげんなもので、２時に結集した時には、東京都と警察の姿は全く見えなかった。

朝までの時間は長かった。途中、待ちきれぬ仲間が４号街路中央でバルサンを炊き、座り込みの陣形が崩れた。浮足立って一目散にかけ出してしまった。野宿労働者はこれまでバラバラにされて蹴散らかされてきた、今バラバラになってはいけない、まとまるんだ、スクラムを組むんだ、これ以降、俺は延々としゃべり続けた。仲間が団結することの素晴らしさをこの場で実証するために、俺は話しつづけた。

団結し、地に根を張り、腹を固めた労働者の力は強い。あとは説明するまでもないだろう。あの闘いは労働者が自らの意思で行動したところにこそ一切の意義がある。

「都の環境整備工事を妨害しようと企て、演説をし煽動した」－検察の言うように、企てと煽動で労働者が立ち上がるものではない

１月２４日は、新宿に８時間、残る時間は留置場で過ごした。野方署に移送される時は車の中で熟睡した。野方で身体検査の際、胸のポケットに隠していた運転免許証が発見され、「新宿署の野郎はいいかげんな身体検査しかしねーな！　何やってんだ」という留置係のポリの言葉に親近感を抱き、「あのー、今日俺、誕生日なんですよ」と言うが、「あっそう」と一蹴された。当時坊主頭であった俺は、他の留置人から「オウムの幹部」と間違われた。

労働者が腹の底からの怒りを持って起ち上がる時、俺はその群衆の中にいたいと常に思っている。傍観していてあとで能書きを垂れる奴にろくな者はいない。社会に衝撃を与えたあの１・２４の渦中で、笑みを絶やさず万感の信頼を持ってスクラムを組みえたこと、あの素晴らしい闘いを決して忘れることはないだろう。

俺は野方署の独房で、外に残り頑張る仲間の姿を思い起こしながら眠りについた。

「帰れ！帰れ！」の怒号がこだました。

胸に込み上げてくる思いは、新宿の仲間たちと団結しえたことへの感動だったのかもしれない。

裁判報告　両裁判、判決迫る！

◎1・24　笠井君・本田君裁判

弁護側は反証で、「この『事件』は起訴状にいわれている『東京都の環境整備工事を卵を投げるなどして妨害した』というようなことではない。1・24は東京都による強制排除であり、東京都は、日雇い・下層の労働者が野宿を強いられている現実を直視し、その原因を見極めることを怠ったのである。」と主張。この主張をもとに、さまざまな分野からの証人が採用されています。前号にひきつづき、証言内容の一部を紹介します。

◇宮下忠子証人（元城北福祉センター＝山谷医療相談員、コミュニティワーカー制度を考える会）

・医療相談員として出会った日雇いの人々のことを世に残しておかなければ、と本にして出版した。

・寄せ場の仕事がなければ労働者は流動的になり、新宿にも自分の知った人がたくさんいる。

◇下田平裕身証人（日本女子大学教授、社会政策・労働政策）

・都市社会というものは拡大すると同時に、そこから「脱落」していく人、競争に加われない人がいつも作りだされていく。都市社会はいつもそういう問題に対応しなければならない。

・今回の東京都の対応を見て、研究者たちが思い出すのは、第二次大戦前、貧困が社会問題になったとき、東京市および東京府のおこなった丹念な調査である。行政担当者自身が問題を持つ人たちの中に入りこんで聞きとりをおこなった。

以下、こちら側の証人は次の方々でしたが、証言内容については、別の機会に報告します。

・安藤孝義（新宿野宿労働者）

・松本勇二（同）

・和久田修（１・２４当日の監視弁護団）

・荒木剛（日雇全協山谷争議団）

・穂坂光彦（日本福祉大学、アジア居住政策論）

・萩原重夫（和光大学、憲法学）

◎１・１３　吉村君裁判

昨年１月１３日、東京都が一方的な「告知行為」をおこなった際、不当にも「公務執行妨害」で逮捕・起訴された吉村君の裁判も、被告人質問をやりきり、残りわずかとなってきました。これまでの弁護側反証で、当局のデタラメぶりが明らかになったと思います。

終盤をむかえた両裁判にご注目を！　また３月には報告集会を予定しています。

☆公判日程☆

・１・２４裁判	２／１９（水）午後１時～	最終弁論・意見陳述
	３／６（木）午前１０時～	判決
・１・１３裁判	２／１２（水）午前１１時～	論告求刑
	２／２１（金）午前１０時～	最終弁論・意見陳述
	判決日は未定	

※傍聴は約１時間前に東京地裁１階の外、傍聴券配付所へ。

スーさんの地下街物語

第一話　消えたスーさんを探せ！

スーさんが消えた ―

西口地下街から突然いなくなった ―

こんな噂を耳にしたのは、東京都によるダンボール村強制撤去から10日程を経た、96年２月初旬のことだった。都庁へと向かう地下通路に長年暮らしていたスーさんは、撤去により住み慣れた我が家を一夜にして失ってしまった。その後、同じ地下街に新たな寝ぐらを築いたところまでは、多くの人が目撃している。しかしここ数日間、その姿を見かけた者は誰もいないというのである。

「ここは騒がしいから他に移動したんじゃない？」

スーさん宅の右隣に暮らす男性はそう言う。

「体調悪そうだったから、入院したんじゃないの？」

斜向かいに住む女性はそう推理する。

「仕事でも見つかったんじゃないかなあ。」

そう語るのはスーさんの顔なじみの男性。しかしどれもさしたる確証があるわけではない。

スーさんこと須田宏（仮名）さん。新宿西口地下街にかれこれ６年以上も暮らす古株の路上生活者である。あまり外には出歩かず、訪れるとたいていはダンボールハウスの中で物思うにひたっていた。たまにくたびれたトランプを床に並べ、たった一人でカード遊びに興じていることもあった。聞けば幼少時代に義父から教わったゲームなのだという。

普段はおとなしいが、話しかけるといろいろ答えてくれた。身よりもなく、行くあてもないと語っていた彼だったが、一体どこへ消えてしまったのか……。

そんな時、スーさんと親しかったある男性がこんな一言。

「なんか施設に入るって言ってたぜ。」

施設 ―。一体何の施設だろう。路上生活者が入所する施設といえば、まず浮かぶのは更生施設である。これは生活保護法に基づいて設置された常設の施設で、生活保護の適用を受けた人だけが入所できる。もっとも生保適用のためには、一定の条件を満たさなければならず、誰もが簡単に入れる場所ではない。念のため、上野の一時保護所（更生施設へは、まずここを経過してから入所することになっている）に問い合わせてみたが、それらしい人はいないという。

更生施設でないとすると、一定期間だけ設置される臨時施設の可能性もある。この時期に開設していた臨時施設は全部で三ケ所。一つは「芝浦寮」。これは強制撤去で住む場所を追われた路上生活者を一時的に保護するため、96年1月末から3月末まで東京都により設けられた施設だ。撤去の対象者だったスーさんなら、ここに入っているかもしれない。「須田さん？　ウチには来てないよ。ここ1週間で新しく入所した人はいないから。」

電話してみるも、どうやら見込み違いだったようである。

二つめは「さくら寮」。新宿御苑の脇に設けられたこれは路上生活が厳しい冬に限り開設され、主に病人や高齢者を対象としている。今度は直接訪ねてみた。

「いやあ、そういう人は入ってないですねえ。

名簿をめくりながらそう答える職員。またしてもはずれである。だんだん不安になってきた。そもそも本当にスーさんは施設に入ったのだろうか。もしかしたら全然見当違いの場所を探しているのでは……。

残る施設はあとひとつ。大田区大井の海岸沿いに建つ「なぎさ寮」である。さくら寮と同様に越冬期だけ設置され、一人につき二週間までなら希望者は誰でも入ることができる。ここにいなければもはや手がかりはない。半ばあきらめながらダメもとで電話してみた。すると……。

「須田さんですか？　えーと、今調べますんでちょっと待ってください」

受話器の向こうから呼び出しのアナウンスが聞こえてくる。しばらくして耳に飛びこんできたのは聞き覚えのある声だった。

「はい、須田ですけど……」

見つかった！　この声、間違いない！　ようやく探し当てることができたのである。その日はとりとめのない世間話だけをして電話を切った。が、僕の中には何だか釈然としない“疑問”が、まだ残っていた。

＜どうしてスーさんはなぎさ寮に入ったのだろう＞

決して社交的な性格ではないスーさんは、大部屋でみんなが雑魚寝をするような臨時施設には入りたくないと、以前僕に語ったことがある。それが今になってどうして入所を決意したのだろう。

また、なぜ全ての荷物を新宿に置いていったのか。荷物といっても、こうもり傘とタオルに石鹸、着替えの衣類が少々。それに愛用のトランプだけだが、路上生活をする上では貴重な品々である。遠くへ出かけるときたいていの路上生活者は、荷物も一緒に持ち歩くか誰かに預けていくものだ。なぎさ寮は原則二週間で追い出されてしまう。再び新宿に戻ったとき、荷物なしでは困るだろうに……。

このことが何だが妙に気になった僕は、それから一週間後、品川発の一台のバスに乗り込んでいた。目指すべきはなぎさ寮。スーさんに会って直接話を聞くためである

（つづく）

（坂井敦・ルポライター）

第3回新宿越年闘争は、１２月２８日から1月６日朝までの１０日間、取り組まれました。新宿で野宿している当事者が中心となり、連日の炊き出し（計４０００食以上）、パトロール（夜回り）などが行われました。夜間は寝るところのない仲間のために西口インフォメーション・センター前にブルーシートで囲った「仮シェルター」を作り、毛布を配付して、最大時１３０人がその中で寝ました。

以下に越年闘争の記録を掲載します。くわしい報告は現在、報告集（Ａ４版４０ページを予定）を制作中です。

◇パトロール◇

	西口地下	西口地上	東・南口	合計
２８日①	３３５	８３	４３	４６１
②	３８０			
２９日①	４１０	８９	４２	５４１
②	４５８			
３０日①	４０３	６５	５９	５２７
②	５４４			
３１日①推定	４２０	８２	５０	推定５５２
②	４３８			
１日①	４８５	９６	７７	６５８
②	４８７			
２日①	４８８	９６	８４	６６８
②	６１２			
３日①	５０５	８７	８９	６８１
②	６０９			
４日①	４６５	９０	７４	６２９
②	５１８			
５日①	４１９	９１	７５	５８５
②	５５４			

パトロールは毎日、①夜９時からと②深夜１時からの２回、おこなわれました。９時からのパトロールは３班に分かれて新宿駅周辺の地下・地上を回り、１時からのパトロールでは地下のみを１班で回りました。

３１日は多くの人たちがインフォメーション・センター前で紅白歌合戦を鑑賞していたため、９時のパトロールでは正確な人数を把握できませんでした。

◇救急対応◇

①４２歳男性　　胸部痛、発作
２９日２１：３０　西新宿第一　添乗×　　墨東病院入院
②６１歳男性　　左額部外傷、せき→喘息の検査
３０日２１：２０　西新宿第一　添乗○　都立大久保→医療センター入院
③５１歳男性　　腹痛、飲み過ぎ
３１日１１：３０　西新宿第二（売店の人が呼ぶ）　添乗×　玉井病院、栄養点滴のみ
④４１歳女性　　発熱、動悸、嘔吐
２日１３：２０　西新宿第二　添乗○　長汐病院　投薬のみ
⑤５６歳男性　　胃痛
４日午後　　西新宿第一　添乗○　都立大久保→大久保ハウス緊急保護
　　→６日よりさくら寮
⑥５３歳男性　　足の腫れ
４日午後　　西新宿第二　添乗○　玉井病院→新宿荘緊急保護
　　→６日以降も新宿荘
⑦６２歳男性　　急性下腹部痛
５日２：００　西新宿第二　添乗×　　新宿病院　投薬のみ
⑧６６歳男性　　かぜ、高熱
６日２：００　　西新宿第一　添乗○　都立大久保、投薬のみ→６日よりさくら寮

救急車で運ばれたものの入院にまで至らなかった２人の人（⑥と⑦の人）について、区役所の宿直をとおして、福祉事務所に連絡し、ドヤでの緊急の保護をかちとることに成功しました。

◇１／５　医療相談◇

医師６人が来てくださり、５３人が相談。そのうち２７人が医療機関にかかった方が良いという診断でした。

◇１／６福祉行動◇

前日の医療相談を受けた人を中心に３９人が参加しました。新宿区福祉事務所に一緒に行き、それぞれ下記のような結果となりました。

参加者３９人……入院６人、さくら寮３人、ドヤ・新光館４人
　　通院のみ９人、翌日病院へ９人、交通費支給２人
　　その他６人

越年闘争報告集、２月中旬に発行予定。乞う、ご期待！

現在、通信会員になっていただいている方、２月末までに通信会員になっていただけた方には、無料でお送りいたします。くわしくはウラ表紙をご参照ください。

あ の ね …

聞き手・いしかわ

・宮下ゆりさんのお話・

――― 私たちの子どもの頃は、そうね、お手玉におはじき。そんな手づくりの遊びが何より楽しかった。

今年還暦を迎えるHさんのダンボールハウスの中、Hさん、宮下さん、そして私も東京下町生まれの女どうし、話がはずんだ。Hさんよりさらに8才年上の宮下さんは、昔の記憶をたぐりよせて、眼を細めた。

――― お手玉の中には小豆を入れて、それもそのうちトウモロコシになって、もっと戦争が進んだ時には、小石をつめて使ったの。歌を歌いながら、こんなふうに。いちれつらんぱん、はれつして・・、あれは東郷元帥の歌だったのかしら。それから、ベーゴマ、ビー玉、めんこ、これは男の子の遊びだけど、よくしたわ。

着物？　そうね、お正月に着るくらいでしたよ。普段は洋服で、姉とおそろいのワンピースにエプロンふうのドレスを着て、ベレー帽をかぶって、写真を写したり。そう、戦前のことです。

敗戦のことは覚えていますか？

――― ええ、玉音放送って言うの、日本が負けるなんて、そんなバカなと思った。悔しくて、泣いたわ。私の親も泣いたし、大勢の人が皇居の二重

橋の前で泣いたと新聞に出ていました。私は女学校の生徒で、１４才でした。小学校を卒業した後、４年間通うの。私は尋常小学校で、一つ下から、国民小学校になった。小学校はね、一クラス６０人で、１～３組が男子、４～６組が女子のクラスでした。

交際？　そんなの、全然。女学校の時なんて、男子生徒と口をきいたら、もう大変。何気なく返事をしてしまったことがあって、誰が見ていたのか、次の日校長室へ呼び出されて、何を話したのかと問いつめられて、苦い思いをしました。喫茶店もあんみつ屋もどこもダメ、家に真っ直ぐ帰らなくてはならないの。

その頃の女学校独自の授業なんかあったんですか？

――― 授業外ですけど、お茶にお花ね。私は利かん気だったから、弓道ならどうでしょうと先生に言われて。そのうち母の病気で、学年が一年遅れてしまったの。同じ歳の友達は一級上で、だからちょっと恥ずかしい、さみしい思いをしました。

働きますと言えば、卒業までに勤め先が見つかるのだけど、私は家の方で勤めには出さないと言われて、断ってしまったわ。甲府に疎開していたのだけど、敗戦後アメリカ人が来たので、女は危ないって、東京に返してもらえなかった。でも、しばらくしてから働きだした。ずっと家にいてもしょうがない、敗戦で丸裸だったから。

甲府から東京の出版社まで通った

の。女性は多かった。戦争で男性が少なかったから、大変な働き手だったのね。男性と同じ仕事で、女性の方が細かくもっと動いて、それでもお給料を少なかったわ。その頃週刊誌が一冊５０円だったけど、本をつくるのは本当に大変で、色刷りの一箇所がダメだと、全部やり直し。その後、設備関係の仕事に就いたのね。くみ取りのトイレを水洗に変える仕事で、２、３時間きり寝なくて、毎日がむしゃらに働いた。自転車で２３区内はあらかた駆けめぐったわ。スラックスでね、あの時が一番楽しかった。

町の様子は変わりましたか？

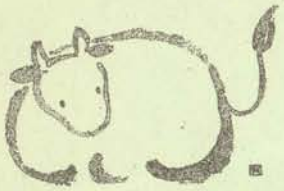
――― ええ、上野のアメ横なんか、戦後は本当に悲惨でした。戦争帰りの男がいっぱいいて。恐くないかって、それはね、一時は恐いけど、慣れれば恐くなくなります。今暮らしてるここ新宿もそうですけど、慣れれば・・。上野なんか今はとてもきれいになったけど、行く気がしないわ。やはり、昔のままがなつかしい。

今の若い人は、とても満ち足りて羨ましい反面、苦心しながらものをつくったり、お小遣いをためたり、これといったものがなくて、物足りないのではないかしら、そんな気がします。

感謝感激、雨あられ！

拝啓 先日は、ゆき子様有難うゆき
新宿ダンボール村通信を頂き
まして誠に有難うゆき座居ます
これから寒さがきびしくなりますが
くれぐれも身体に気を付けて
新宿ダンボール村を守って下さ
い。本年も新宿連絡会の皆
様方宜敷く行って下さい。私は高齢者
に成る前ですがこの通信を頂き
有難うゆき座居ます。出は皆様に宜敷

明けましてお年出度う御座居ます。
皆々様方にも良き一年（新年）を
迎えれます様陰ながら御祈念申し
上げます。
一九九九年 元旦



© 1996 SANRIO CO., LTD.

皆様方世話になりました。御影様、
二年目に手術日
ました。迅速はま
来定です。近後
宜敷御願致

郵便はがき

160-□□

新宿区西新宿1-1-1
新宿西口合同メーションセンター前
新宿ダンボール村

インフォメーション前
新宿連絡会
新宿ダンボール村行き

平成九年ダンボール
の皆様良い年を
迎えよろ原す
おます

誌上で新年の
挨拶を申し上げ
ます。
一九九七年
一九九八年 元旦
皆様いかがお過ごしでいらっしゃいます。
凡都なび別れていろしでいます。
正月中に一度お訪ねすべき約束を稲荷町えとしておきます。約束を果たせず申訳ありません。今年も宜しくお願致します。

四年中は大変おせ話
になりました。来年の運命を
寒さきびしくなりますのを
祈念して「ご」さい。
ゆき子

新宿区にゆかりのある人々 第二
「それでは、次回の「新宿ダンボール村通信」をたのしみにしてい

H8.12.26 PM2:00
生活相談一時保護所
娯楽室にて

*1月は くも者も部分を切り取られずに郵便局へお持ちください。

これからもダンボール村をよろしくおねがいします。

9/1 ～10/31 会計報告

【繰越金】	369,470
【収入】	
カンパ（含む路上）	676,087
ニュース・パンフ 売上	35,400
	計711,487
【支出】	
炊事関連費	393,243
（米、野菜、容器、ハシ、ゴミ袋等	
行動・闘争費	132,998
（食事、文具、紙、DPEなど）	
交通費	213,782
（含むガソリン、駐車料金）	
資料代	50,000
	計790,023
【残金】	290,934

たくさんのみなさまからの
たくさんのカンパ、本当に、
ありがとうございました。
これからもよろしくお願いいたします。

11/1～1/5 会計報告

【繰越金】	290,934
【収入】	
カンパ	3,090,000
路上カンパ（含むパンフ 等売上）	392,475
通信会員費（55口）	275,000
	計3,757,475
【支出】	
炊事関連費	643,196
行動・闘争費	752,070
交通費	284,558
物資・車レンタル	175,296
毛布代	414,575
発送費	81,500
医薬品・医療関連	77,899
資料代	26,804
	計2,478,668
【残金】	1,569,741

★通信会員を募集中です★

新宿連絡会は、通信会員制を導入しました。年会費は年５０００円です。通信会員になっていただいた方には、この『新宿ダンボール村通信』（隔月刊）を毎回、お送りするほか、イベントの案内などを送らせていただきます。また、２月末日までに通信会員になられた方には、現在制作中の越年闘争報告集を郵送させていただきます。ぜひご協力ください。越冬カンパもひきつづきお願いいたします。

通信会員費、カンパは、内容を明記の上、

郵便振替口座　００１７０－１－７２３６８２「新宿連絡会」へ

編集・発行：新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議（新宿連絡会）
連絡先：〒111 東京都台東区日本堤 1-25-11　山谷労働者福祉会館気付
〒160 東京都新宿区西新宿 1-1-1　インフォメーションセンター 前　新宿ダンボール村
☎03（3876）7073／030（818）3450